

# 文化庁の本格移転を見据えた 地域文化の振興に関する提言

近畿ブロック知事会

令和2年7月

# 文化庁の本格移転を見据えた 地域文化の振興に関する提言

文化庁の京都への本格移転を契機に、改正文部科学省設置法や改正文化財保護法が施行され、新・文化庁にふさわしい組織改革・機能強化や地域における文化財の計画的な保存・活用の促進、地方文化財保護行政の推進力の強化が図られる等、東京ではできなかった取組が展開されているところである。

文化庁の移転先として選ばれた関西には、国内の国宝・重要文化財の約5割が集積し、文化が地域に根差しているが、そのような関西においても、地域文化の担い手の減少、関心の低下、ふれあう機会の減少や生活様式の変化によって、多様な地域文化が徐々に失われようとしている。

そこで、文化庁の京都への本格移転を見据え、関西が誇る地域文化の次世代への保存・継承を図るとともに、地域文化を元気にする取組をさらに強化するため、文化庁のさらなる機能強化と併せて以下のとおり提言する。

## 1 文化資源の保存・継承・活用

個性豊かな地域文化の次世代への保存・継承を図るとともに、さらなる活用を推進

### ① 文化資源の保存・継承・活用を図るための支援の強化

国の指定文化財（有形・無形）だけでなく、地方公共団体が独自に支援を行っている将来国による指定・登録が見込まれる文化財等についても支援対象とする等、財政支援を拡充すること。

また、後継者養成や記録作成、用具等の整備等を支援する「文化財総合活用推進事業」について、事業計画の様式の見直し等手続きの簡素化や実行委員会のみならず自治会等の既存組織も補助事業者とする等の補助要件の緩和により地域の負担軽減を図ること。

### ② 存続が難しい地域文化のアーカイブ化の推進

過疎・高齢化の進展により、地域の行催事等を全てそのままの形で継承することは難しいことから、存続が困難な地域文化を対象として、将来再現が可能になるような形で記録するアーカイブ化を国において推進すること。

### ③ 文化資源の発掘や活用をけん引する専門性を備えた人材確保への支援制度の創設

地方には文化活動の担い手だけでなく、文化資源の発掘や活用をけん引する知見を持った専門人材が不足している地域が存在する。地域の文化活動を振興するため専門性を備えた人材確保に向けて支援制度を創設すること。

## 2 新たな価値創造

最先端技術の活用により生み出される新たな価値を創造し文化の魅力向上を推進

### ① AR・VR等の先端技術の活用推進

「先端技術を活用した日本文化の魅力発信事業」の対象に、地域に根ざす社寺等の文化資源を加える等、文化の魅力発信に対する支援を拡充すること。

### ② 最先端の技術と伝統的な技術の融合による複製（クローン文化財）の拠点を関西に設置

文化財の多面的な活用に向けて、最先端のデジタル技術と伝統的なアナログ技術によって立体的に見たり触れられたりできるクローン文化財の展示・制作拠点を文化の集積地である関西に設置すること。

## 3 関西文化を活用した地方創生の推進

地方創生に向け関西文化を発信・体感する取組を展開

### ① 国による、関西文化の粋を結集し先端技術と融合した取組として「文化博」（仮称）の実施

文化庁の京都への本格移転や国による「日本博」の開催期間を踏まえて、国内外の多くの人々に地域文化への関心を喚起するとともに、各地域が実施する様々な文化イベントへの誘引を図り、もって地域文化の保存・継承・活用へとつなげるため、国において、日本文化の源流である関西を皮切りに、地域文化と先端技術の融合等により、新たな地域文化の創造及び発信に資する取組として、「文化博」（仮称）を実施すること。

#### 【文化博（仮称）開催イメージ】

##### ○開催時期及び場所

文化庁移転及び大阪・関西万博開催を踏まえ、2022年第1回及び2025年第2回は関西で開催し、以降は3年に1回全国各地で展開

※文化庁移転の意義である文化の力による地方創生を進め、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の具体化として、個々人がポテンシャルを発揮できる生き方と、それを支える社会の在り方の議論につなげる。

##### ○内容（例）

#### ◆先端技術との融合による文化芸術の創造・発信

- ・ 一流演者（人間国宝等）と最新映像技術の融合による能の演舞など、文化芸術の新たな価値を創造
- ・ AR・VR等を活用して、平安時代の絵巻物の中を当時の衣服を着て散策するなど、関西文化を知る疑似体験

#### ◆障害者の文化芸術活動の発表・鑑賞の場となる展覧会等の開催

- ・ 障害のある方々が制作した魅力的な文化芸術作品の発表及びクローン文化財など先端

技術を活用した作品鑑賞の支援を行う場として、共生社会に向けて開かれた展覧会等を開催

② 地方公共団体による、関西各地における様々な文化イベントの展開への支援強化

国による「文化博」(仮称)への参加をきっかけとして関西文化に興味を持った人々に向けて、関西文化への理解をより深める体験型イベント等を地方公共団体が関西各地で開催することにより、関西文化の振興が図られるよう地方公共団体に対する支援を強化すること。

併せて、「WITH コロナ社会」を踏まえ、オンラインなどを活用した新たな文化振興の取組に対する支援を強化すること。

【重点的な支援を求める体験型を中心としたイベントの例】

- ・ 祈る文化：地域の祭りへの参加や社寺での写経の体験
- ・ 演じる文化：能、狂言、人形浄瑠璃などの実演体験
- ・ 味わう文化：社寺等の文化財を会場とした精進料理の体験
- ・ 観る文化：美術工芸展覧会、工房見学・体験
- ・ 飾る文化：着付け体験、ファッションショー見学
- ・ 共生する文化：聴いて、触れて、心で感じる展覧会、障害の有無を超えて芸術作品を語るワークショップ

令和2年7月

近畿ブロック知事会

福井県知事	杉 本 達 治
三重県知事	鈴 木 英 敬
滋賀県知事	三日月 大 造
京都府知事	西 脇 隆 俊
大阪府知事	吉 村 洋 文
兵庫県知事	井 戸 敏 三
奈良県知事	荒 井 正 吾
和歌山県知事	仁 坂 吉 伸
鳥取県知事	平 井 伸 治
徳島県知事	飯 泉 嘉 門

関西広域連合